

2019-3-1 ハトの臍臓及び十二指腸

米田 有希



<https://db3.bird-research.jp/news/201603-no3/>

提出機関 University of Melbourne, Australia

症例 ハト(カワラバト), 年齢及び性別不明

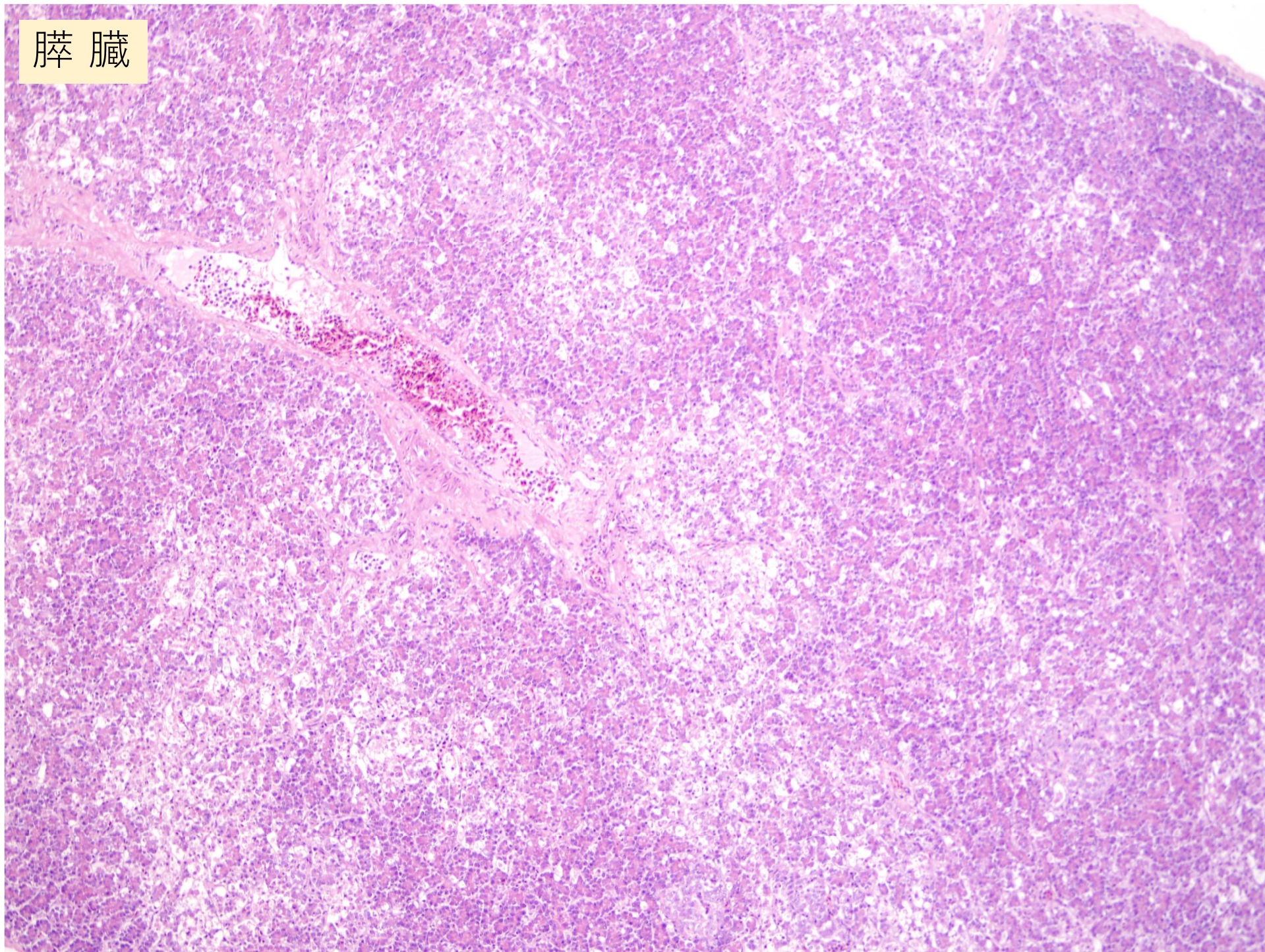
病歴 2011年にハトの大量死が発生
臨床症状は無気力、突然死、神経症状(詳細不明)

肉眼病変 罹患したすべてのハトの腎臓は腫大、退色
大多数のハトも脾臓腫大、臍臓は斑点状灰色に変色

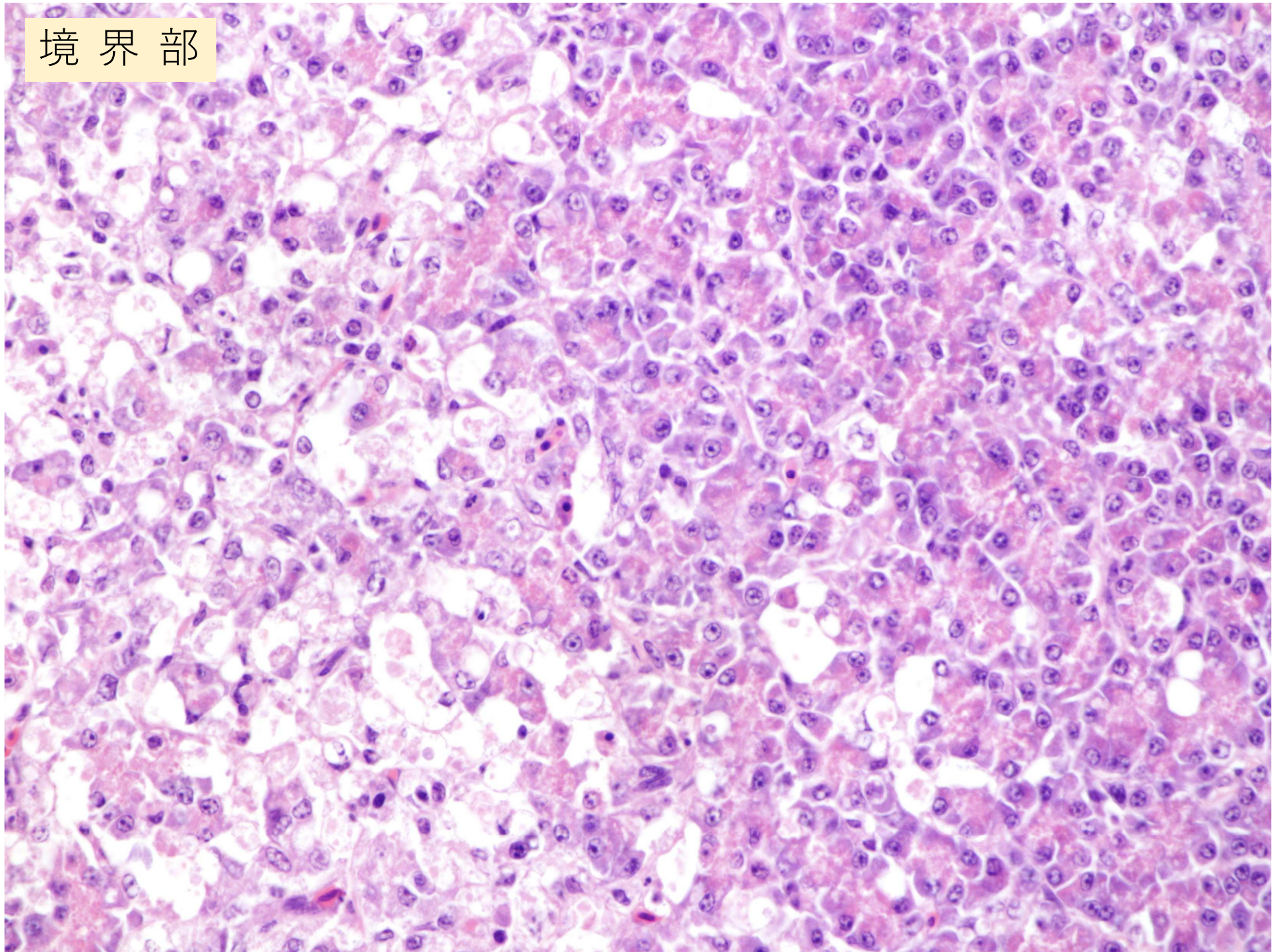
検査成績

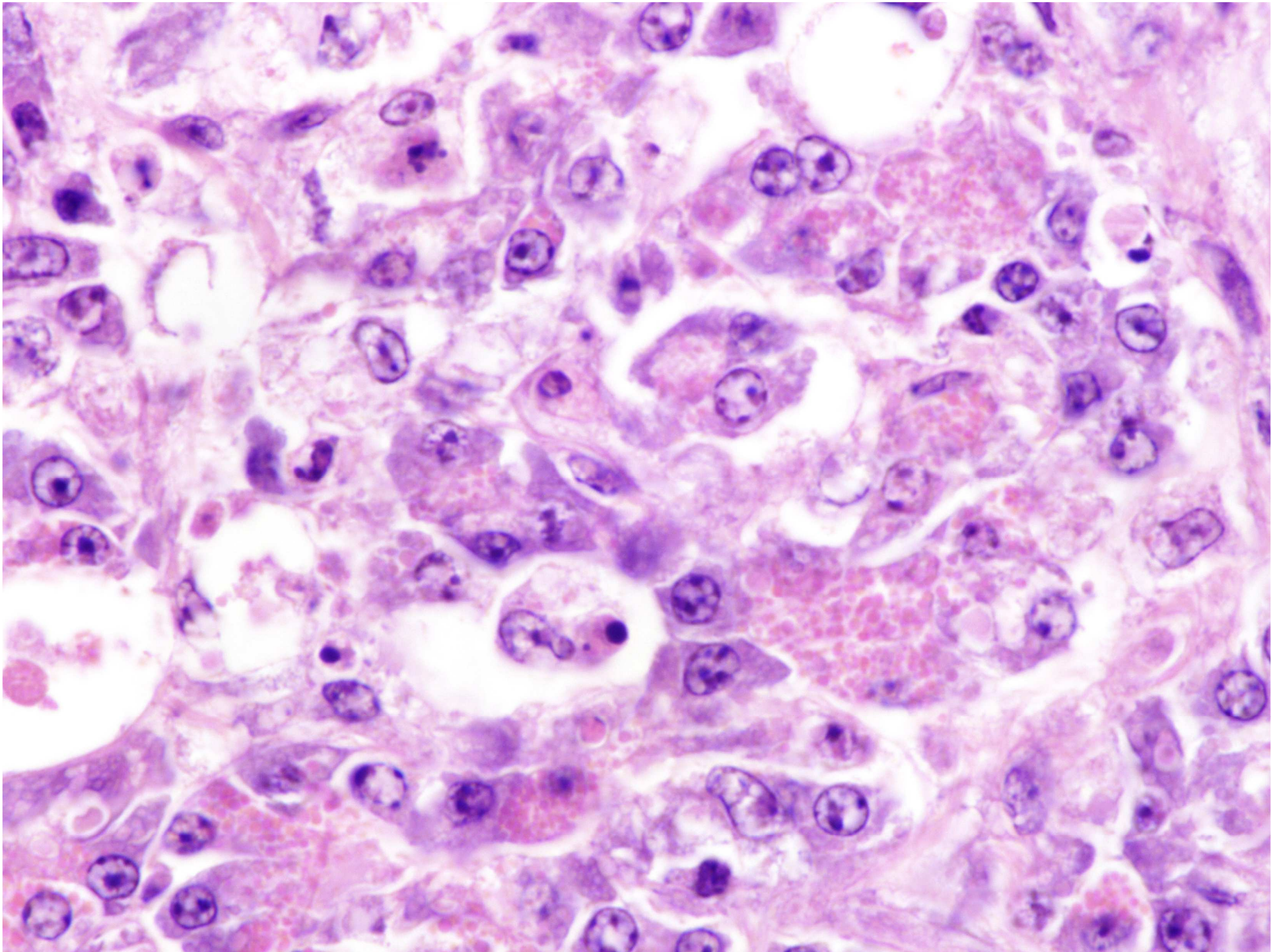
PCR・ウイルス分離検査でニューカッスル病(ND)ウイルス 陽性
トリパラミクソウイルスの免疫組織化学染色 陽性

脾臟

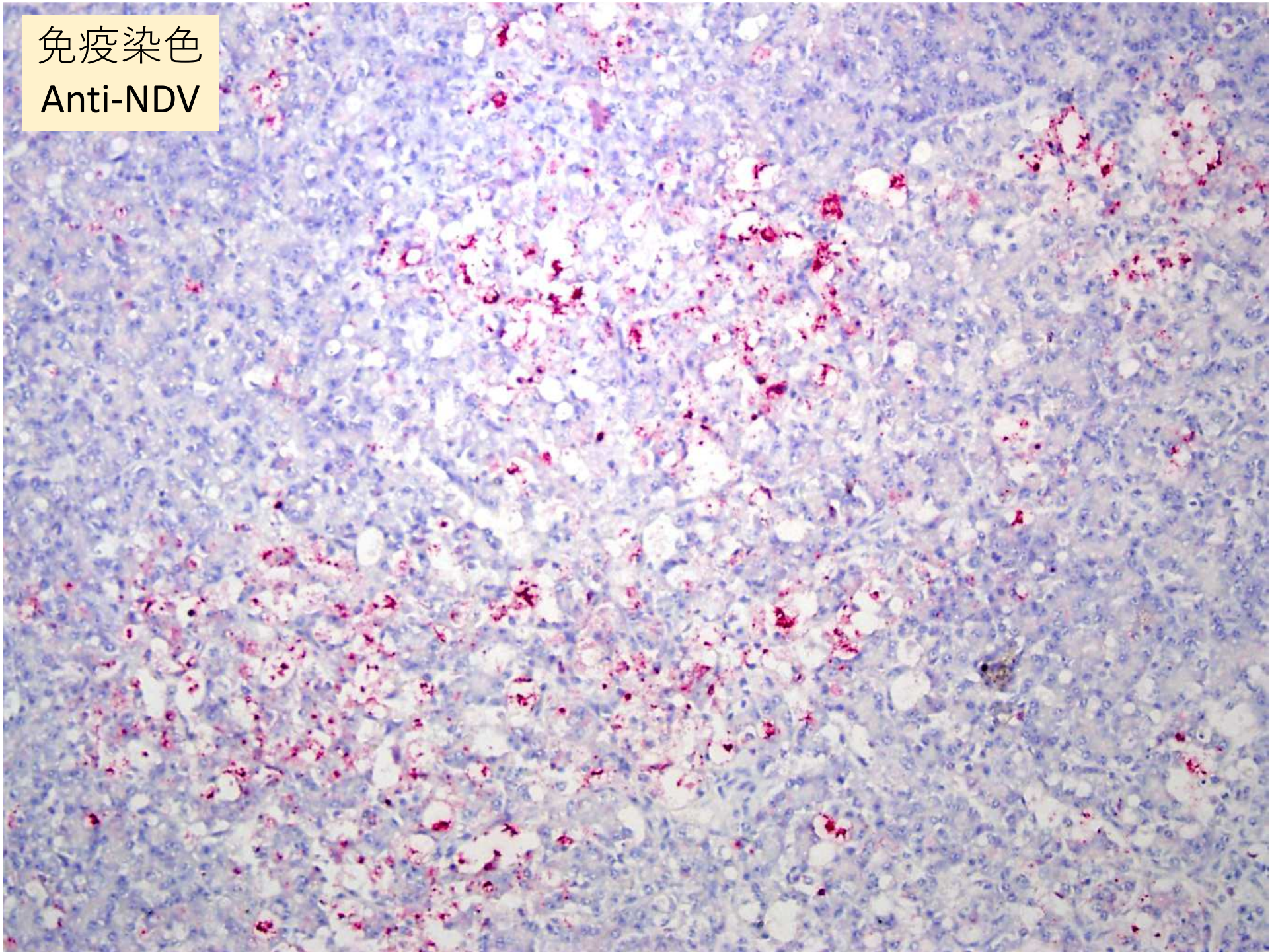


境界部

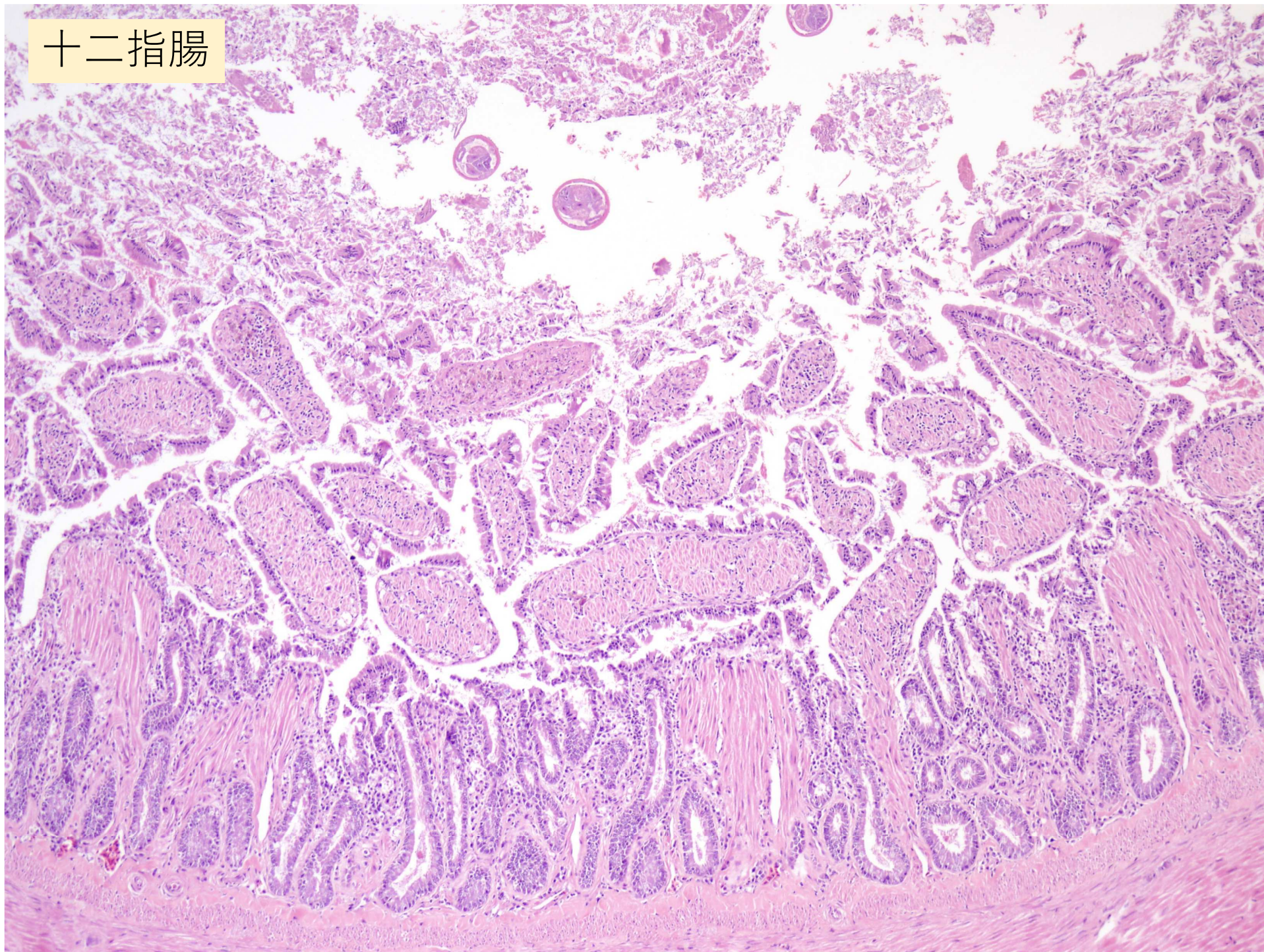




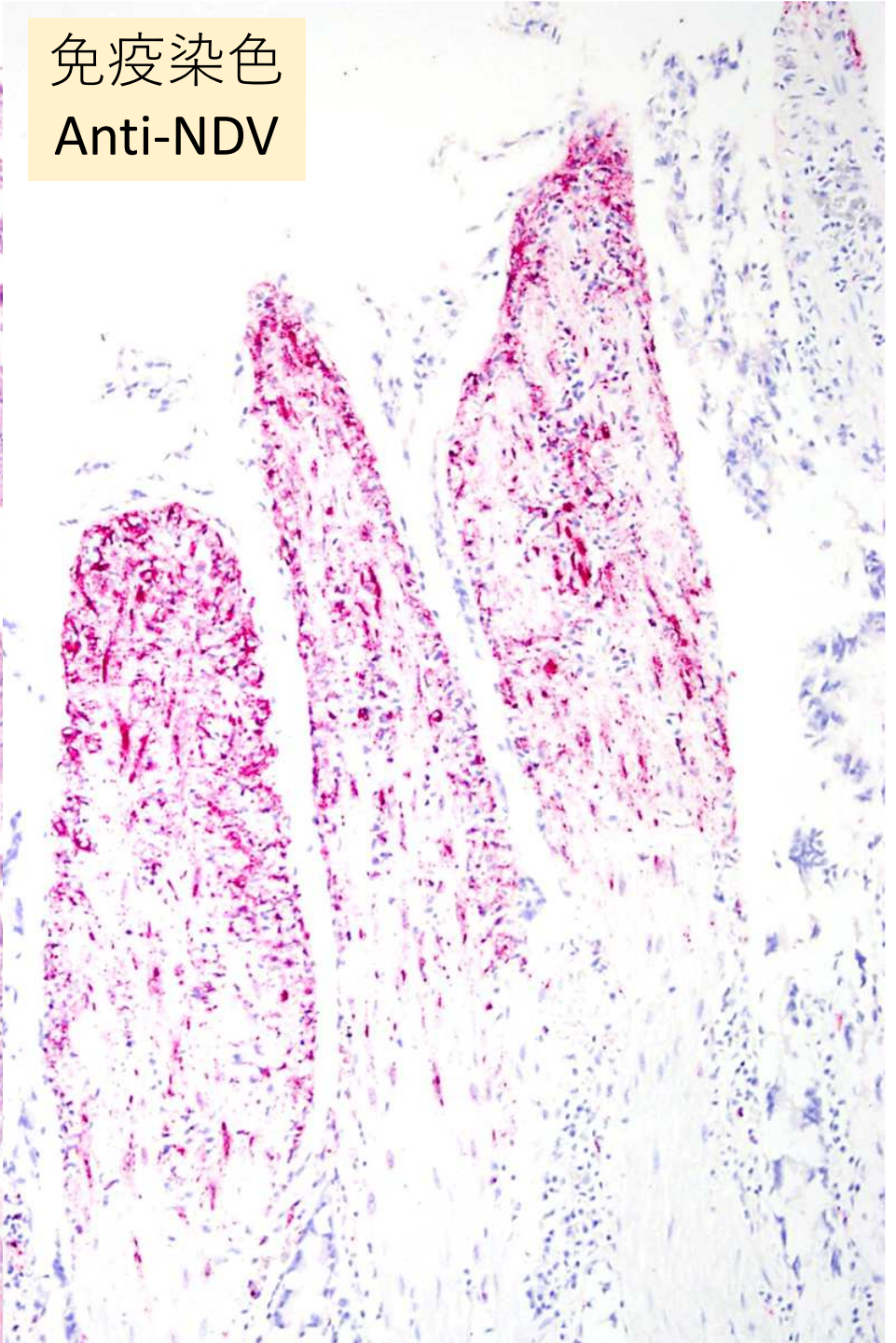
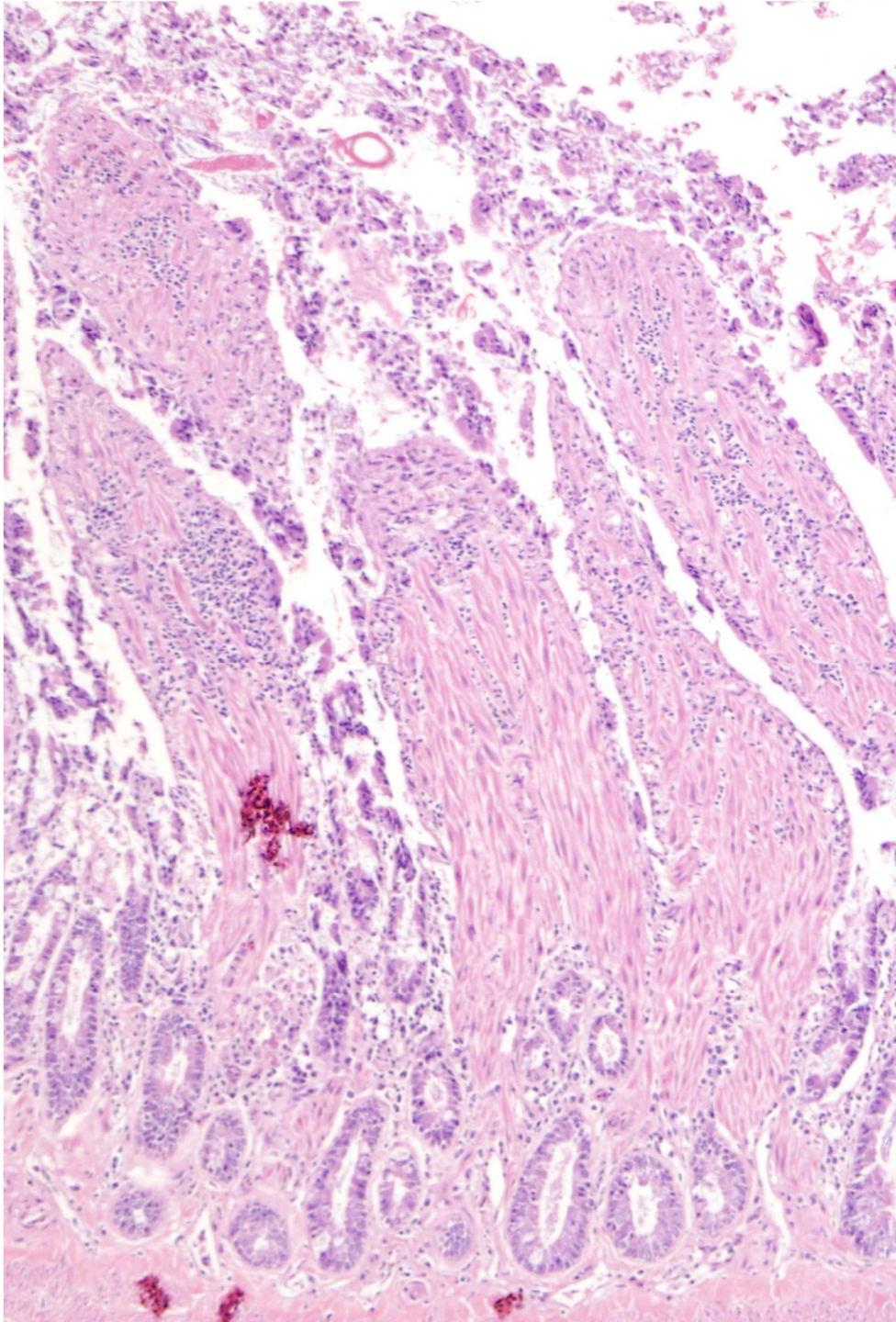
免疫染色
Anti-NDV



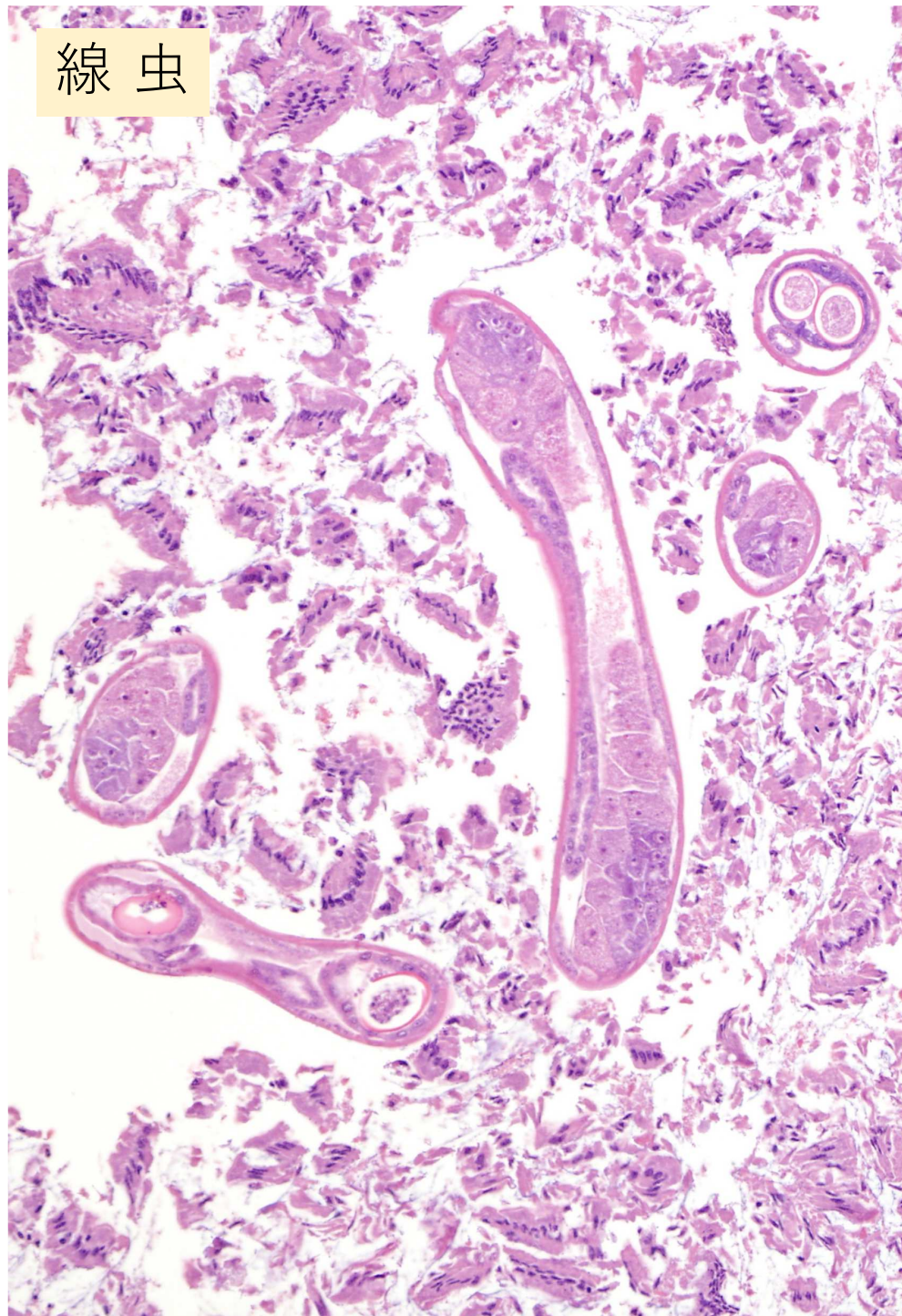
十二指腸



免疫染色
Anti-NDV



線虫



提出者の診断

1. 膵臓壊死、多発巣状、急性、重度。
2. 軽度、慢性、び漫性のリンパ形質細胞性腸炎。
Capillaria sp.と一致する腔内線虫を伴う。

1. Pancreatic necrosis, multifocal, acute, severe.
2. Mild, chronic, diffuse lymphoplasmacytic enteritis with intraluminal nematode parasites, consistent with *Capillaria* sp.

JPCの診断

1. 膵臓：膵炎、壊死性、ランダム、多発巣状から癒合性、中等度。
 2. 小腸：腸炎、潰瘍性、多発巣状、軽度。
 2. 小腸内腔：わずかな成虫の無ファスミッド線虫。
1. Pancreas: Pancreatitis, necrotizing, random, multifocal to coalescing, moderate.
 2. Small intestine: Enteritis, ulcerative, multifocal, mild.
 2. Small intestine, lumen: Few adult adenopharsid (aphasmid) nematodes.

ND

パラミクソウイルス科エイブラウイルス属

強毒	・ 強毒内蔵型 ・ 強毒神経型	病原性NDウイルス (家畜伝染病)
中等毒		
弱毒		低病原性NDウイルス (届出伝染病)

病原性NDウイルス

①初生ひな接種試験

鶏の初生ひなにおけるICPI指数 (脳内病原性指数)が0.7以上

②F蛋白開裂部位アミノ酸配列分析

分離ウイルスのF蛋白開裂部位において113-116番目に塩基性アミノ酸(アルギニンもしくはリジン)が3つ以上存在し、117番目にフェニルアラニンが存在

ハトのNDウイルスについて

- ・ハトに対して病原性の強いNDウイルスは、ハトパラミクソウイルス1 (PPMV-1)と呼ばれる。

PPMV-1に罹患した場合

ハト 臨床症状 神経症状や下痢が特徴。呼吸器症状なし
組織病変 限局性非化膿性髄膜脳炎、脾臓壊死、尿細管壊死、肝臓、脾臓及び肺に形質細胞浸潤

ニワトリ 報告は少ないが、軽度である。

(NDに罹患した場合：神経症状、呼吸器症状、下痢(緑色水様性)、産卵低下、卵の異常)

今回の症例

臨床症状 突然死、神経症状

組織病変 脾臓：脾臓壊死

腎臓：尿細管壊死

脳：脳の病変は少ない。髄膜に限局的な軽度リンパ球の浸潤

➡ 今回の症例の所見は、PPMV-1の一般的症状や病変と一致